

## 抗菌薬適正使用支援チーム（AST）

### この号の内容

- 1 抗菌薬適正使用支援チーム（AST）
- 2 薬剤耐性（AMR）対策について

一部の抗菌薬が効かなくなった細菌を薬剤耐性菌と呼びます。この薬剤耐性菌による感染症の治療には高額な抗菌薬や副作用が強い抗菌薬を用いる必要があるため、薬剤耐性菌を生まない努力や薬剤耐性菌の伝播を阻止する必要があります。また薬剤耐性菌発生には抗菌薬の使用量や抗菌薬選択が関係あると言われており、不適切な抗菌薬使用は好ましくありません。そこで抗菌薬の適正使用を推進する目的で、来年度の診療報酬に抗菌薬適正使用支援加算が新たに追加されます。この加算は病院内に抗菌薬適正使用支援チーム（AST）を設置し、感染症治療の早期モニタリングとフィードバック、微生物検査、臨床検査の利用の適正化、抗菌薬適正使用に係る評価、抗菌薬適正使用の教育・啓発等を行うことによる抗菌薬の適正使用を推進することにより算定ができると規定されています。

当院では平成30年4月よりこのASTを立ち上げる予定で、1週間に1度抗菌薬ラウンドを実施し、院内の感染症治療に対し早期よりコンサルテーションを実施しています。この抗菌薬ラウンドは、カルバペネム系抗菌薬、抗MRSA薬の使用症例と血液培養陽性症例を対象としていますが、感染症治療に難渋している場合や抗菌薬選択で苦慮している場合でもコンサルテーションを受けていますので、困った際には感染管理室に相談してください。また感染症のコンサルテーションは大崎市民病院以外の大崎管内の医療機関からも受けています。



感染症治療の提案やマネージメントに関して提言します。我々には強制力はありませんので1案として考慮してください。

AST チーム

## 薬剤耐性（AMR）対策について

新規抗菌薬の開発件数は 1980 年代以降急速に減少しています。一方で薬剤耐性菌は増加傾向にあり、日本のみならず海外でも問題になっています。そこで 2015 年に WHO は薬剤耐性（antimicrobial resistance：AMR）に関するグローバル・アクション・プランを採択し、加盟国に AMR に関する国家行動計画を策定するように求めました。この採択を受け、日本は 2016 年に AMR アクションプランを作成・公表しました。日本の AMR アクションプランのユニークな点の一つとして、国民に対する薬剤の知識、理解に関する普及活動・教育活動を推進する事があげられます。厚生労働省は国民に関心を惹くように、有名アニメキャラクターを用いてをの啓発活動を実施しています、興味のある方は厚生労働省の HP や政府広報オンライン等をご参照ください。

厚生労働省作成の啓発ポスター



また経口抗菌薬は風邪をひいた際にはよく処方されますが、本来は不要の処方です。本当に抗菌薬が必要か検討して、患者説明をしたうえで抗菌薬を処方しない姿勢も今後は求められてきます。抗菌薬が処方された患者には、途中で服用中止せずに飲み切る努力も必要となります。